

大阪樟蔭女子大学研究紀要第1号（2011）

戦前期女子高等教育機関の家政教育資料のデジタルアーカイブ化とその歴史的研究

学芸学部 国文学科 白川 哲郎

学芸学部 教養教育事務センター 竹内さおり

田辺聖子文学館 住友 元美

本研究は、2003～2007年度まで継続してきた「樟蔭学園草創期資料のデータベース化とその活用」ならびに、2008年度の「大正～昭和戦前・戦中期の女子教育関係資料のデジタルアーカイブ化とその基礎的研究」を継承するものである。

平成21（2009）年度は、2008年度に購入したブックスキャナーを利用して、これまでに実施してきていた大正・昭和戦前・戦中期の樟蔭高等女学校ならびに樟蔭女子専門学校の卒業アルバム・写真帳のデジタル化をほぼ終了することができた。その後は、卒業アルバム等の一部修正用画像の撮影を継続している。なお並行して、昭和50（1975）年頃までの大阪樟蔭女子大学の卒業アルバムについても同様にデジタル化を行っている。

加えて、樟蔭女子専門学校の『教務日誌』についても、現存分のデジタル化を終了し、分析を開始した。

なお、これらのデジタル化した画像については、学内公開の方法について検討したが、平成21年度中には達成することができなかった。公開については、今後の大きな課題である。

一方、家政教育関係の資料として、樟蔭女子専門学校及び本学草創期の家政教育、とりわけ「割烹」教育を担われた古澤クラ先生の『割烹実習要目』（樟蔭女子専門学校出版部、1937年）をデジタル化した。その内容と当該期における樟蔭女子専門学校のいわゆる「卒業試験」に該当する試験問題とを併せて分析し、その結果を白川が「十五年戦争期の女子専門学校「家事」試験問題」（『大阪樟蔭女子大学（学芸学部）論集』第47号、2010年）として発表した。

ここでは、①いくつかの科目で当時の経済状況や戦況を反映する試験問題が出題されていたこと、また、②実用的な科目であるが故に、戦時下の物資や食料が不足する中で、それに対処し得る知識や技量を問う、実践的な出題がなされていることを指摘した。

さらに、『検定ニ関スル試験問題集』のデジタル画像を2009年度国文学科歴史文化専攻の開講科目「歴史文化総

合研究A」において活用し、そのうちの1928～38（昭和3～13）年度樟蔭女子専門学校国文科で実施された国語関係試験問題について、受講生とともに翻刻し、検討を行った。その成果は、白川が受講生との連名で、「樟蔭女子専門学校国文科「国語」試験問題の翻刻と紹介（1）」（『樟蔭国文学』、2010年）として発表した。

ここでは、①『古事記』『万葉集』『源氏物語』、近世文学が「国語」試験問題の出題の中心となっていること、②昭和10年度から出題に加わった武田宗俊先生が作成した試験問題が、明治以降、特に当時としては現代文学に当たる文学作品を出題対象としており、それまでの問題とは異なる新たな一面を試験問題に付け加えていることを指摘した。

今後は、ブックスキャナーをよりいっそう活用し、学園所蔵資料のデジタル化を促進して、その公開を目指したい。加えて、デジタル化が終了した資料（群）の分析についても、より深化させて行きたい。



古澤クラ『割烹実習要目』（樟蔭女子専門学校出版部、1937年）巻頭図版（部分）。